

Ⅲ. 平成 23 年の罹患概要

1. 集計の期間

罹患年月日が平成 23 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間

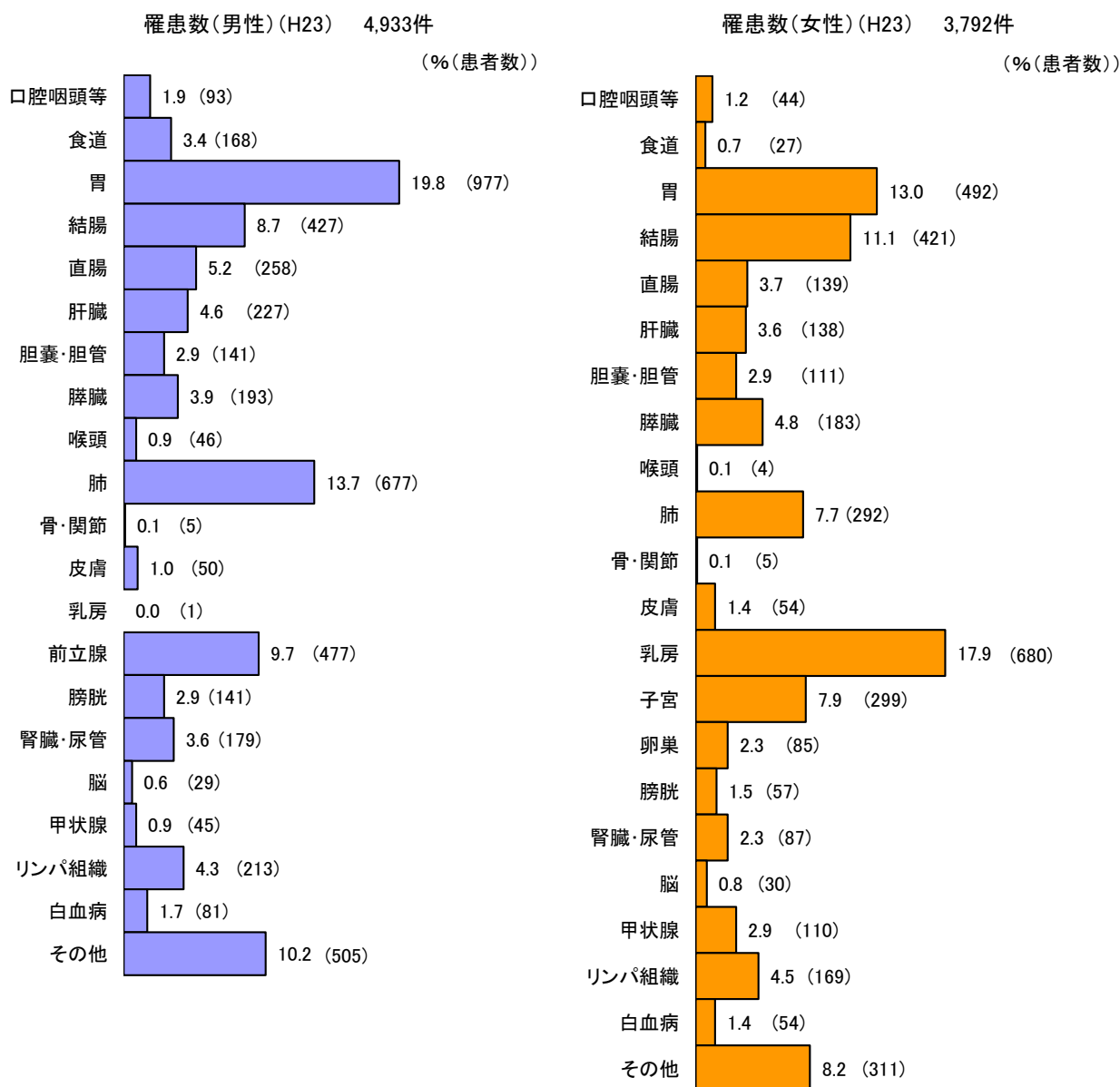
2. 集計の時期

平成 26 年 12 月末現在

3. 部位別罹患患者数

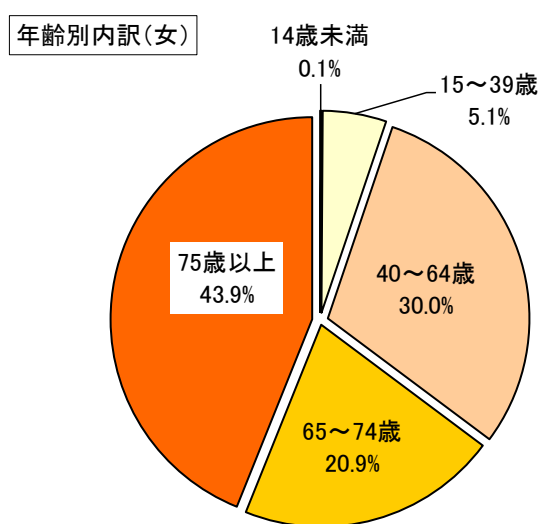
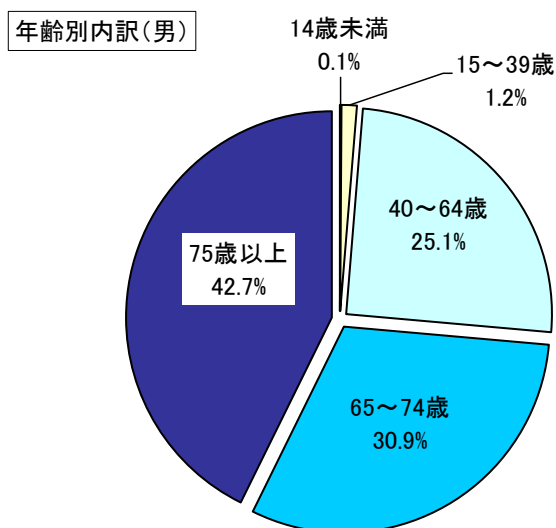
(1) 部位別内訳

平成 23 年の罹患数は、男性 4,933 件、女性 3,792 件の合計 8,725 件であった。男性でもっとも多いがんは、胃がんであり、次いで、大腸（結腸及び直腸）、肺、前立腺、肝臓の順となっている。女性では、最も多いがんは乳がんであり、次いで、大腸（結腸及び直腸）、胃、子宮、肺の順となっている。

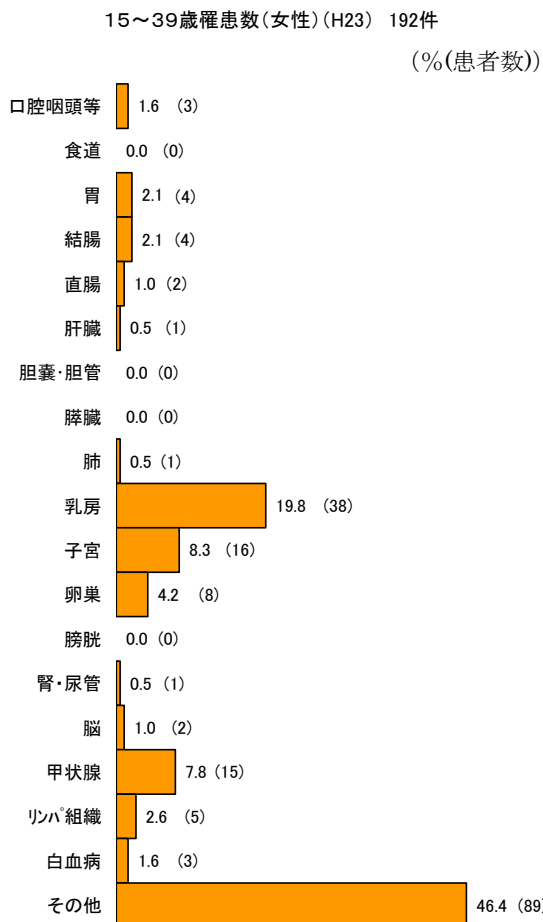
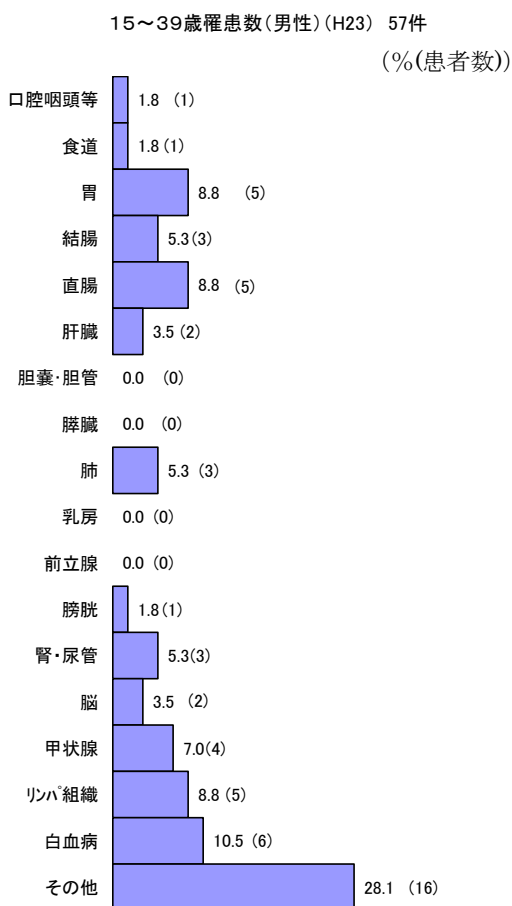


(2) 年齢別内訳

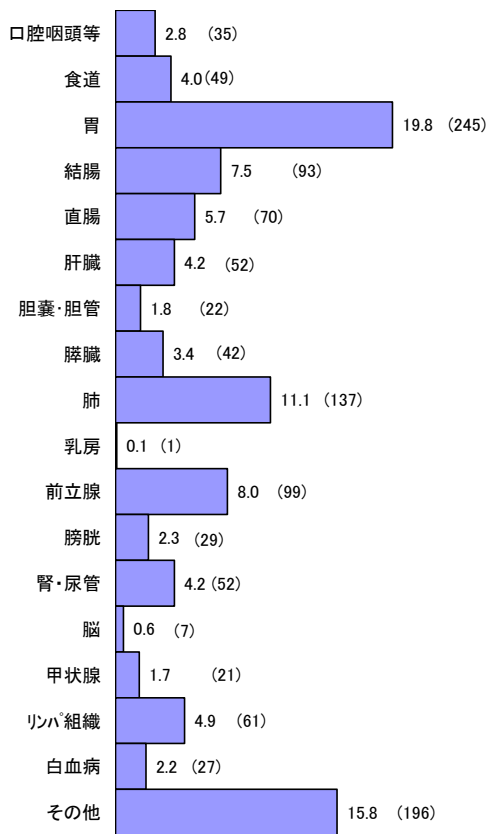
年齢別に見ると、男女とも 75 歳以上が最も多く、40%以上を占めている。男性では、次いで 65 歳～74 歳が 30.9%、40～64 歳が 25.1%となっている。女性では、次いで 40～64 歳が 30.0%、65～74 歳が 20.9%となっている。



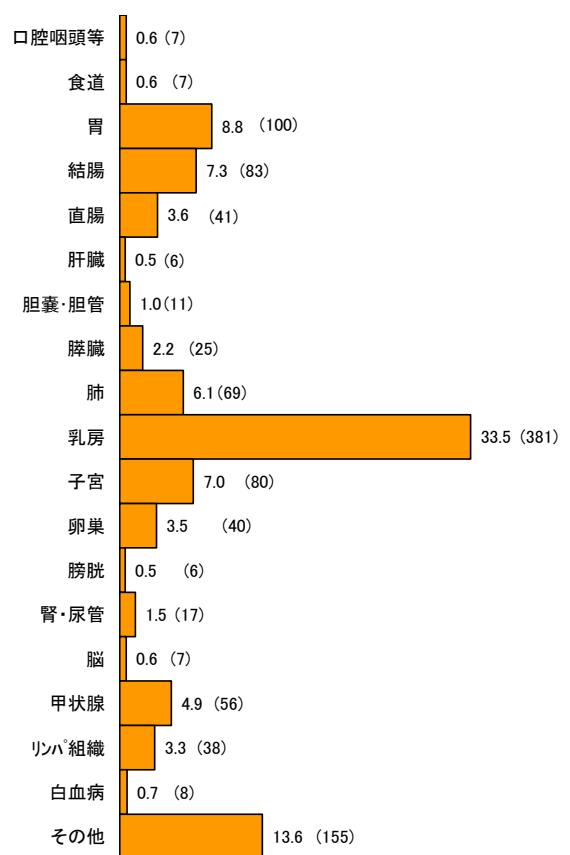
(参考) 年齢別部位別内訳



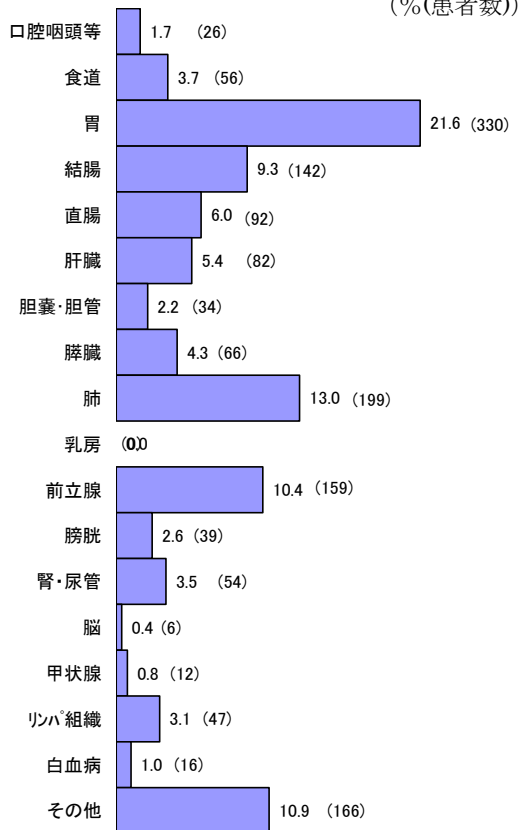
40～64歳罹患数(男性)(H23) 1,238件
(%(患者数))



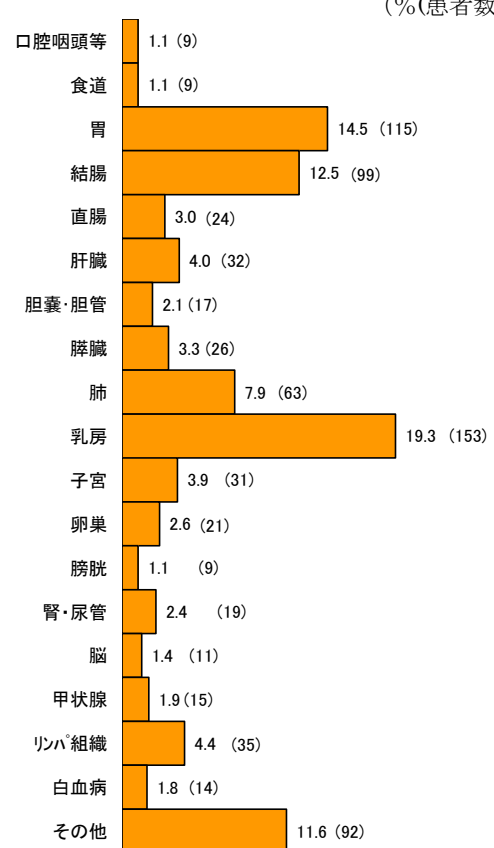
40～64歳罹患数(女性)(H23) 1,137件
(%(患者数))



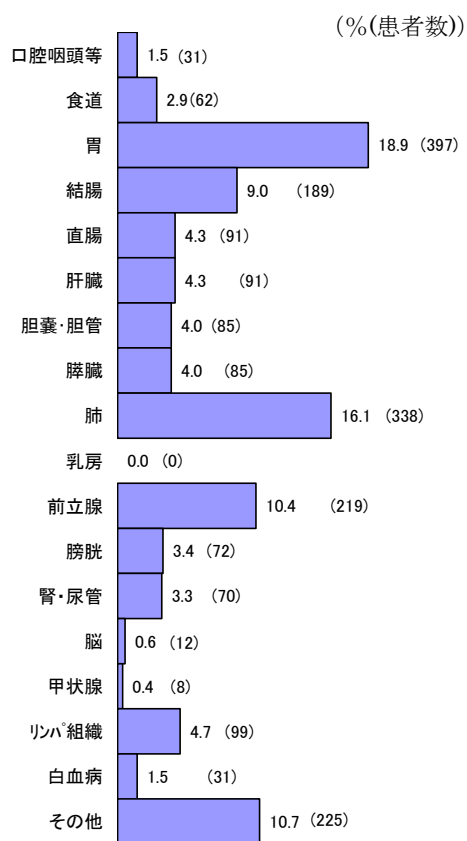
65～74歳罹患数(男性)(H23) 1,526件
(%(患者数))



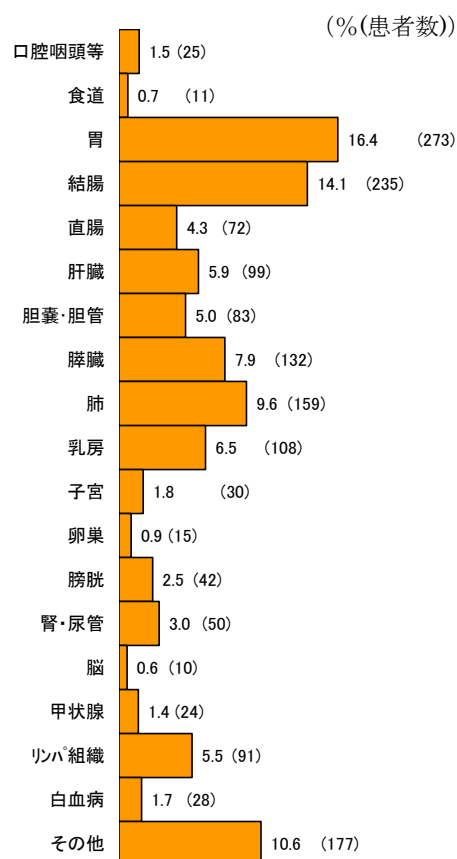
65～74歳罹患数(女性)(H23) 794件
(%(患者数))



75歳以上罹患数(男性)(H23) 2,105件



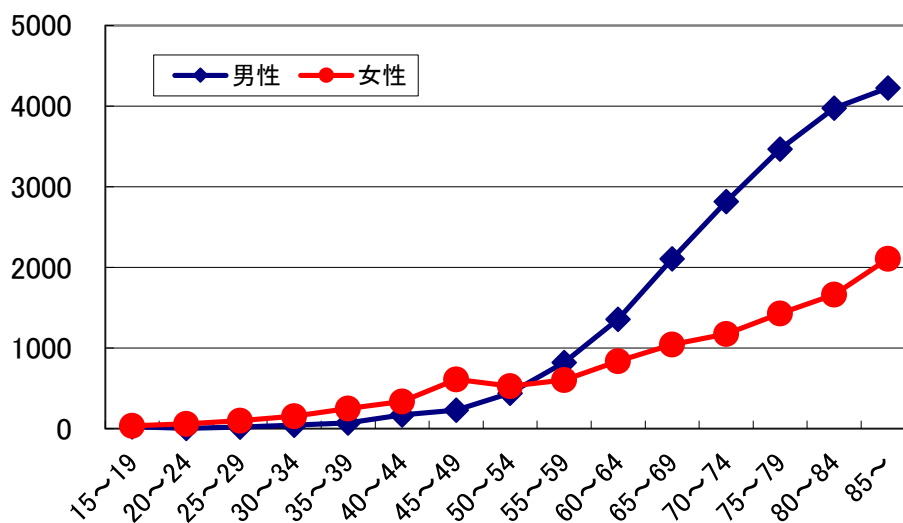
75歳罹患数(女性)(H23) 1,664件

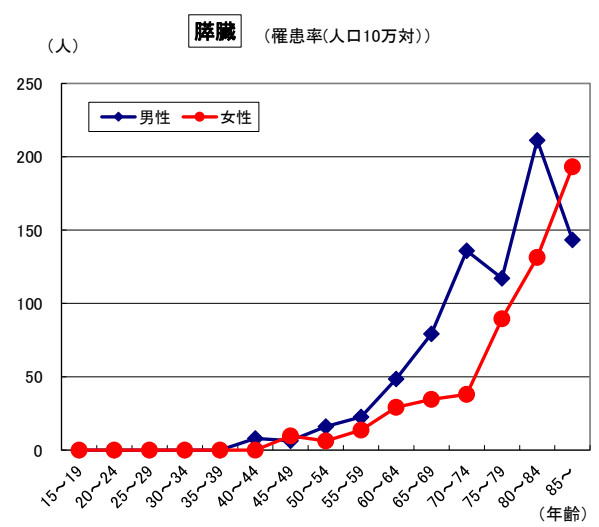
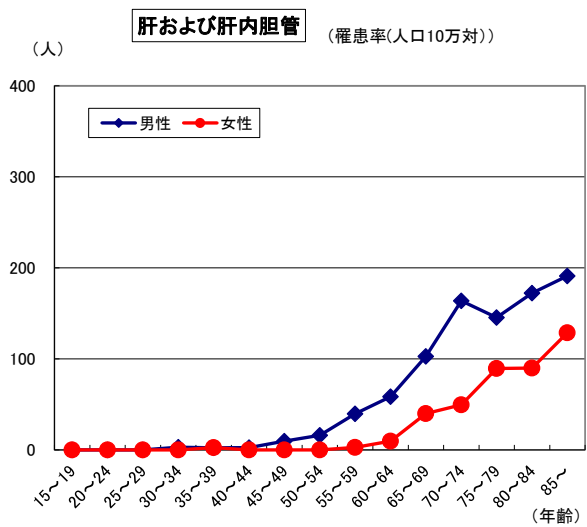
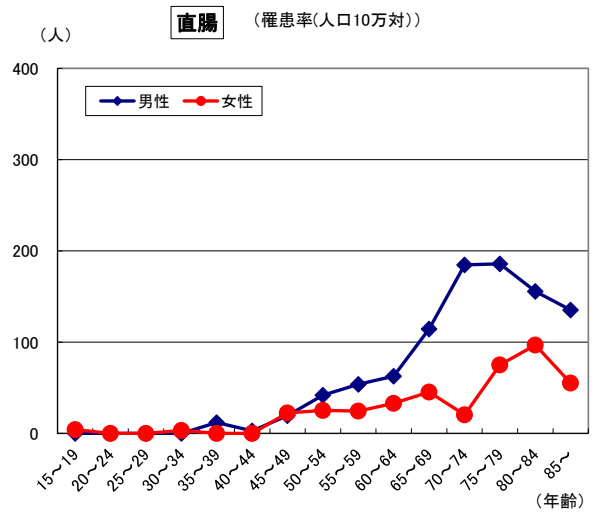
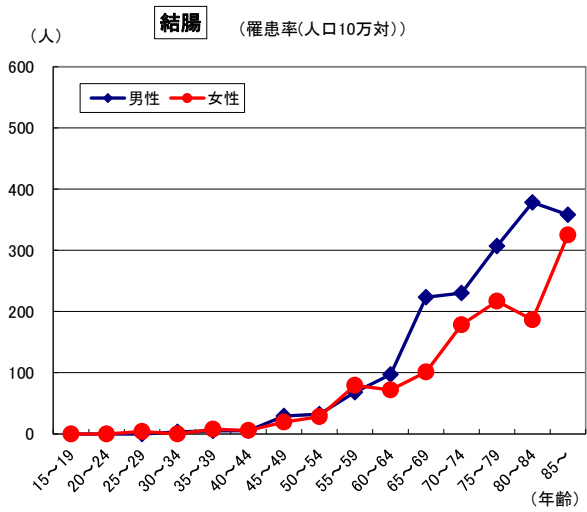
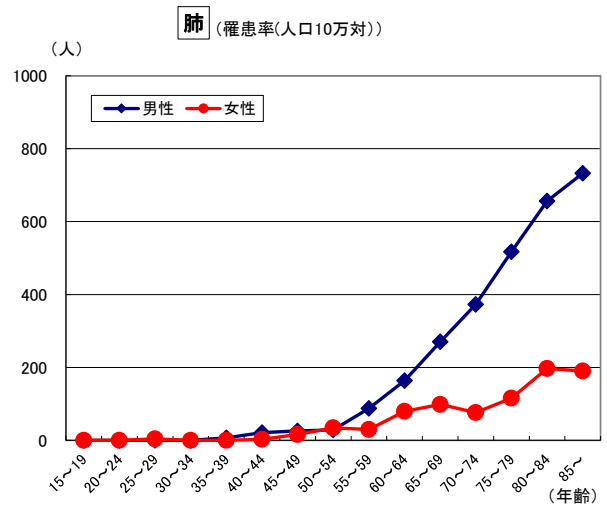
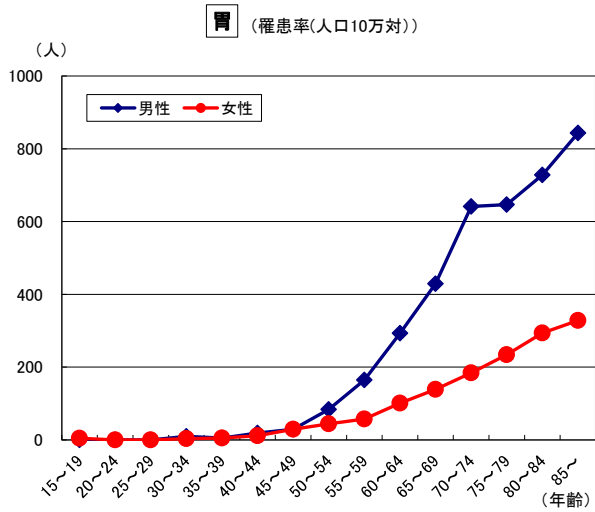


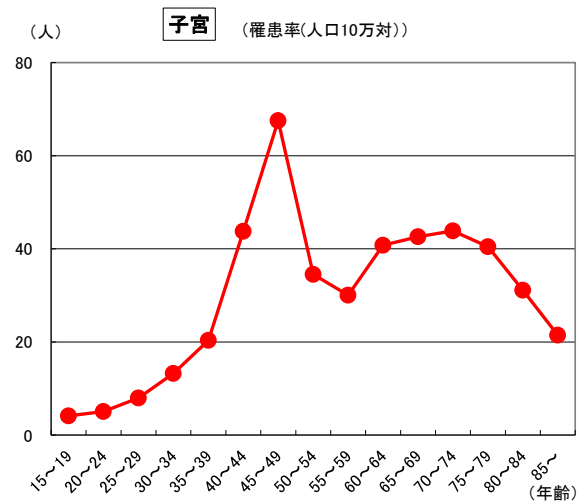
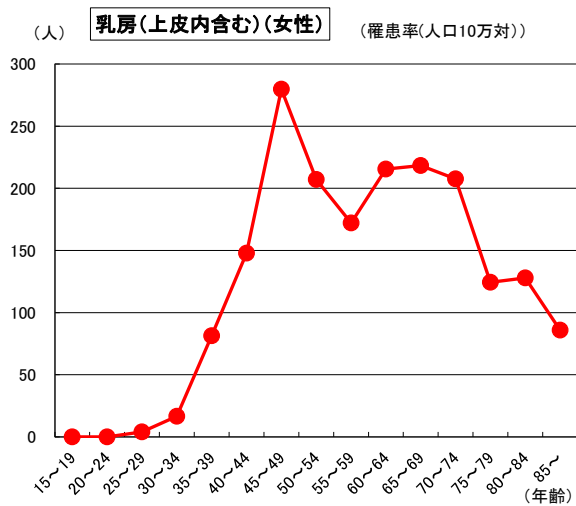
4. 年齢階級別罹患率

年齢階級別にみると、20～54歳では女性が男性を上回っており、55歳以降は、男性が女性を上回っている。男性・女性ともに60歳以降で増加している。

全部位

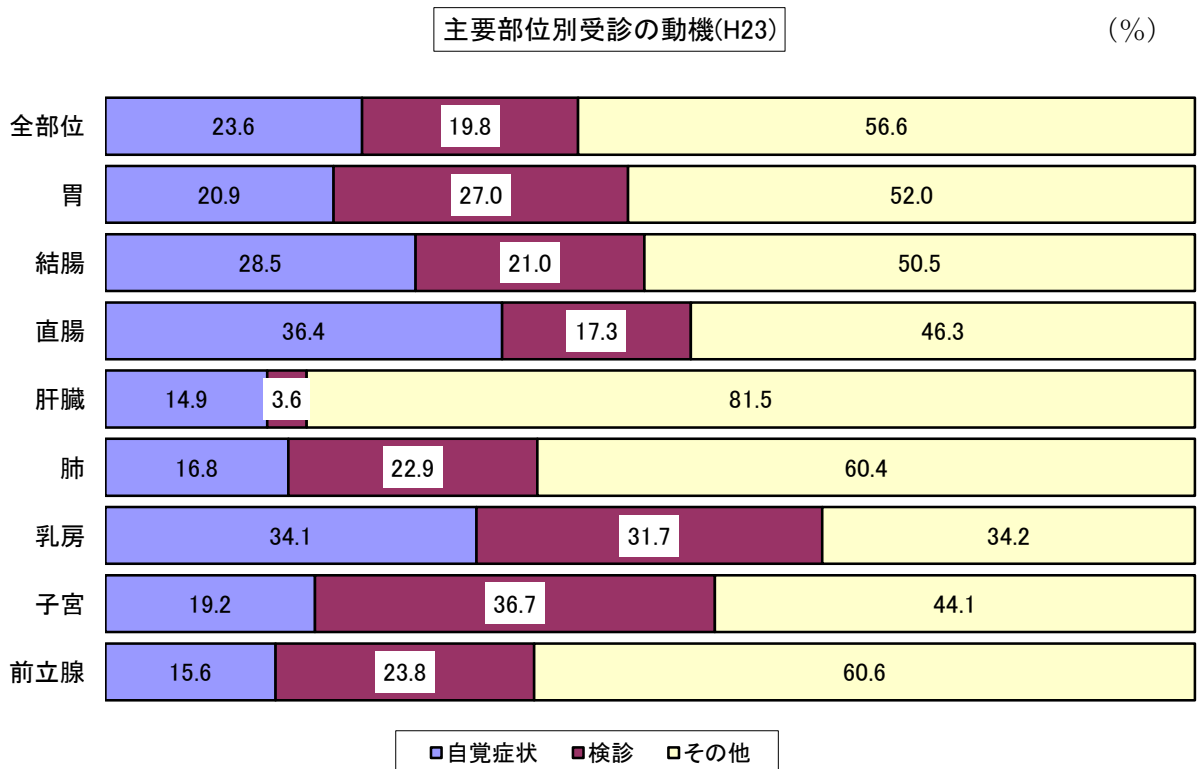






5. 受診の動機

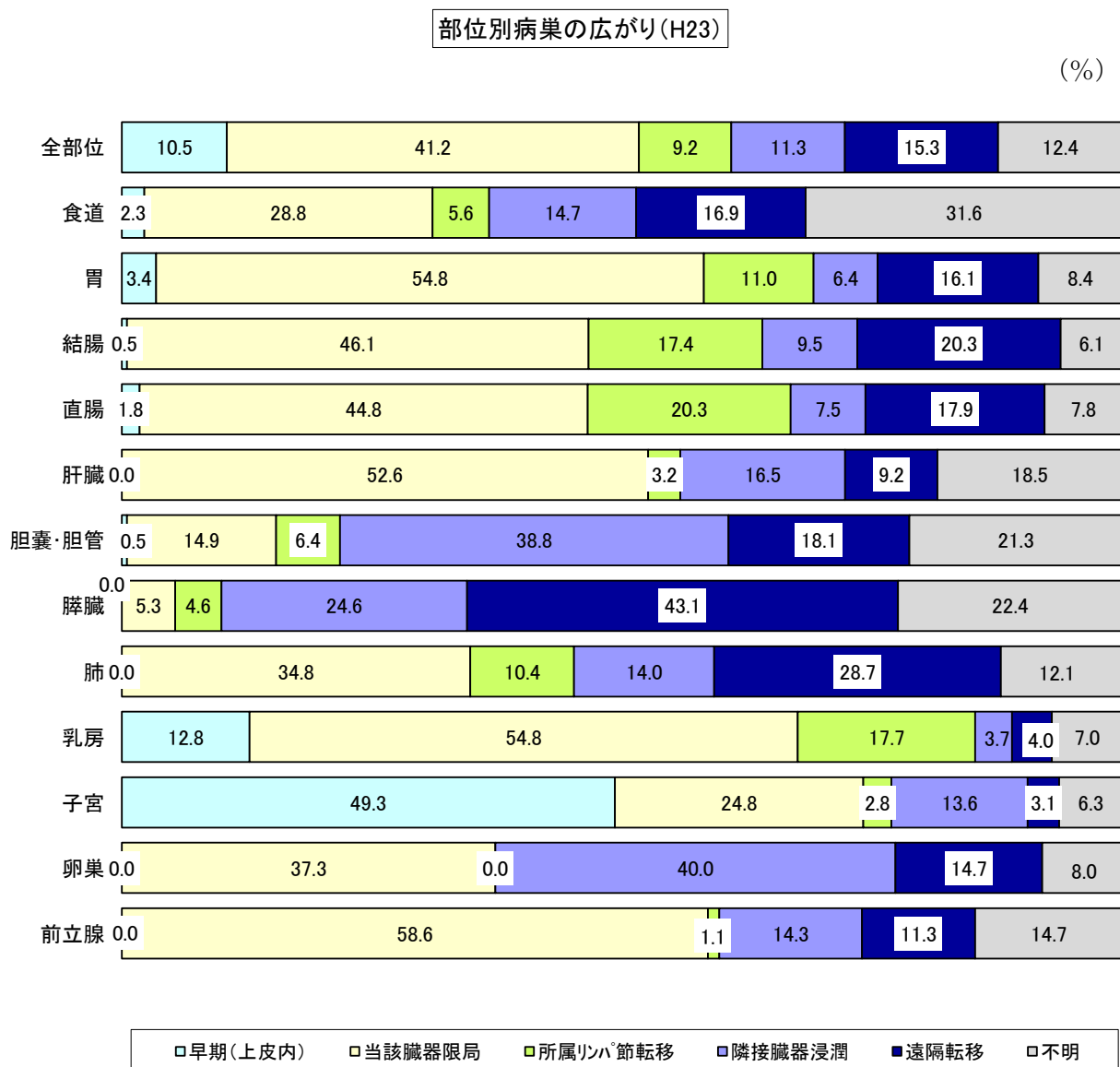
全部位における受診の動機は、自覚症状が23.6%、検診が19.8%となっている。一般にがん検診として実施されている部位において、検診が受診の動機となった割合は、胃27.0%、結腸21.0%、直腸17.3%、肺22.9%、乳房31.7%、子宮36.7%であった。



※乳房・子宮は上皮内がんを含む

6. 病巣の広がり

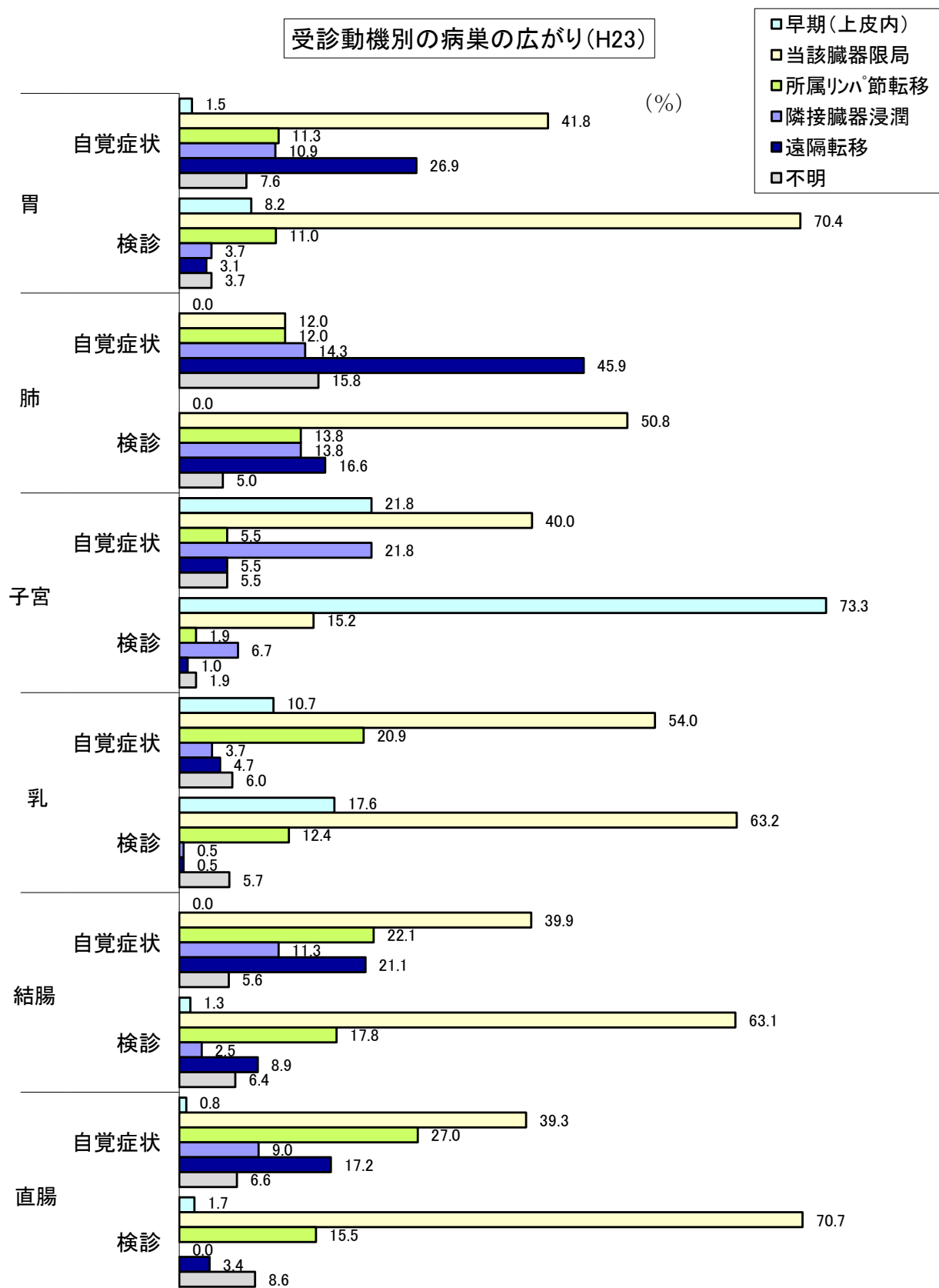
病巣の広がりでは、全部位でみると、早期（上皮内）10.5%、当該臓器限局41.2%、所属リンパ節転移9.2%、隣接臓器浸潤11.3%、遠隔転移15.3%となっている。



※乳房・子宮は上皮内がんを含む

7. 受診動機別の病巣の広がり

部位別に自覚症状群と検診群の病巣の広がりをみると、各部位において、検診群の方が、自覚症状群に比べ、早期、当該臓器限局が多い状況となっている。



※乳房・子宮は上皮内がんを含む

8. 治療方法

治療方法では、全部位でみると、手術が最も多く 65.2%、次いで化学療法 31.9%となっている。胃、結腸、直腸、乳房、子宮体部で手術療法が 8 割以上、食道、膵臓で化学療法が 5 割以上、食道、乳房、子宮頸部で放射線療法が 3 割以上となっている。

